

産官連携 DX 脱「焼け石に水」の介護予防へ

市場サービス活用 × DX による
持続可能な 社会モデルづくり

プロジェクト立案の背景

自治体の介護予防事業にありがちな「焼け石に水」問題

八王子市には15万人もの高齢者が暮らしていますが、
私たち職員が介護予防教室やイベントにマンパワーをかけても、
参加者はせいぜい100人、1000人の健康関心層。しかも多くがリピーター。
普及啓発も、関心の高い方にしか見てもらえていない(気がする)・・・。

→ 実は99%以上に手が届いていない???

必要なのは

- ・ 健康に関心がなくても、人との交流が好きじゃなくても続けられる事業
- ・ コスト(マンパワー・予算)をかけなくても多くの方を対象にできる事業

「てくポ ～八王子てくてくポイント～」

脳にいいアプリ

by (b_p)
ベスプラ

- 歩く
- 食べる → 「スター」がもらえる 無料アプリ
- 脳トレする

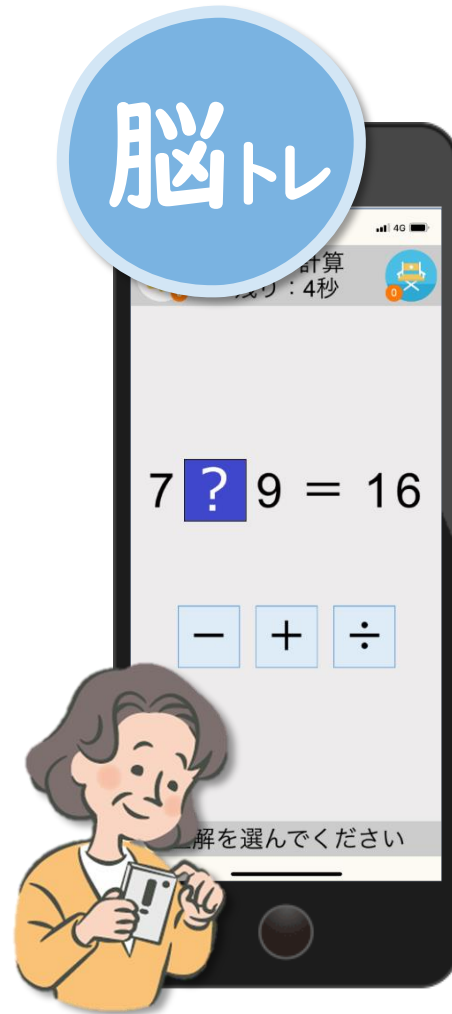
地域電子ポイント

- アプリのミッションクリアで貯まる
- イベント・ボランティア参加で貯まる

てくポ[®]

運動・栄養・社会参加を
楽しく・お得に促すポイント制度

ポイントを貯める



ポイントを **使**う

1,000ポイント



市内のてくポ利用店舗で
1,000円分の買い物



or

PayPayポイント
700円分に交換



ポイントによる行動促進効果

令和3年度の実証データより

350人程度のモニターの活動状況を、同じ「脳にいいアプリ」を使う他自治体のユーザーと比較。
(てくポユーザーとの違いは、基本的にはポイントの有無のみ)

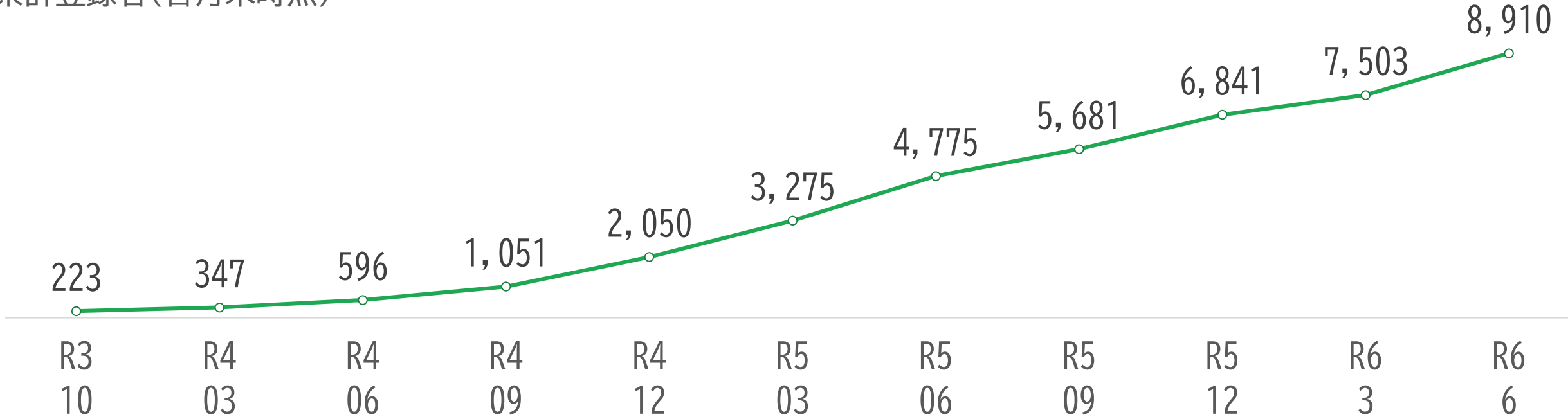
例えば脳トレは、1日5回で1ポイント(1円相当)の付与となっているが、

脳トレ実施率を **7** 倍に高めることができた。

- 平均歩数: **5,247**歩 ← A市1,065歩
- 平均脳トレ回数: **3.62**回 ← A市0.5回
- 食事アクティブ率: **73**% ← A市10%

登録者数の推移

累計登録者(各月末時点)



初年度実証
人数を絞って10~2月に実施

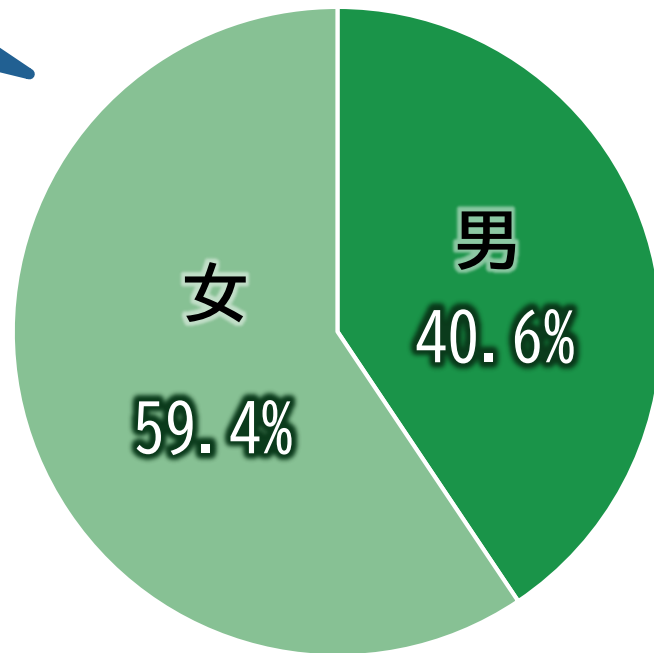
【R4.6】実証再開
オンラインでの登録が可能に

【R5.4】対象年齢を
「65歳以上⇒60歳以上」に変更

2024年6月末日現在 登録者8,910名

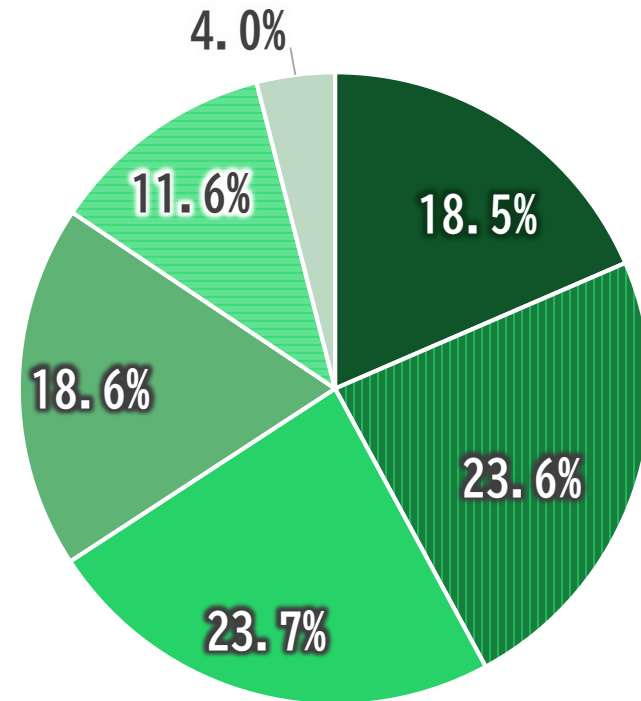
登録者の内訳

性別 (R6.6月末時点)



これまでの
介護予防事業で
巻き込みが
難しかった
男性の参加率
が比較的高い。

年齢 (R6.6月末時点)



ボリュームゾーンは
プレシニア
~前期高齢者

- 60~64 ■ 65~69 ■ 70~74
- 75~79 ■ 80~84 ■ 85~

ポイント利用店も募集中

ポイント決済の流れ

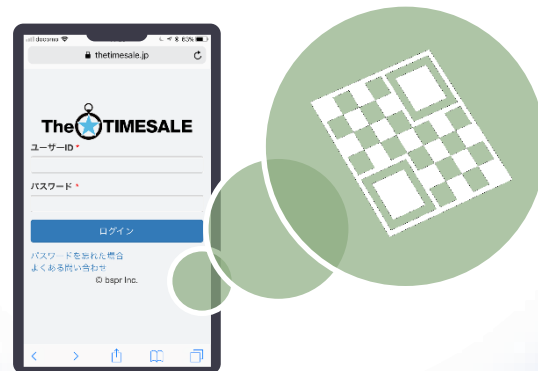
1

ユーザーが
支払い時に
ポイント利用を申し出



2

お店が
スマホ・タブレットから
QRコードを画面に表示
※ 専用機器不要



3

ユーザーが
アプリ内メニューから
QRコードを読み取り



4

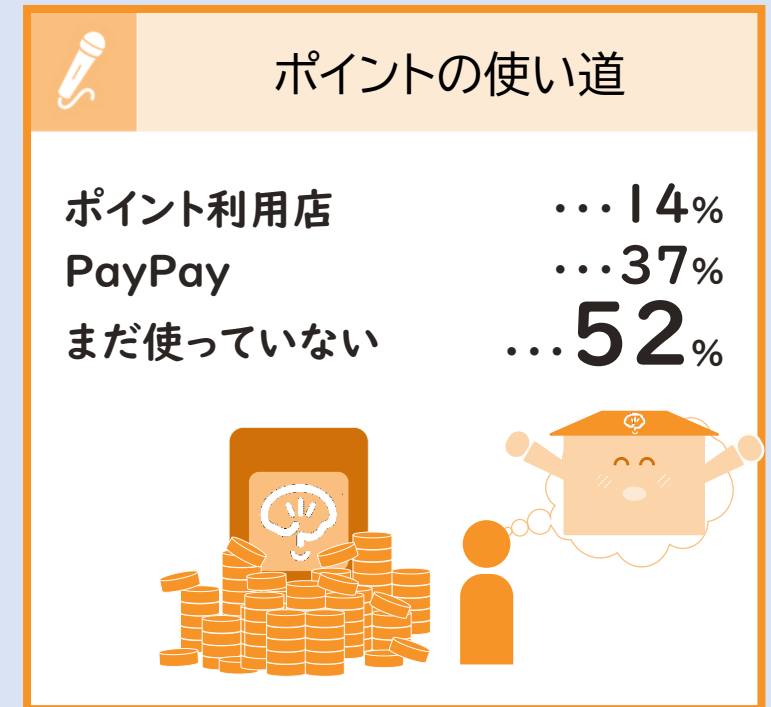
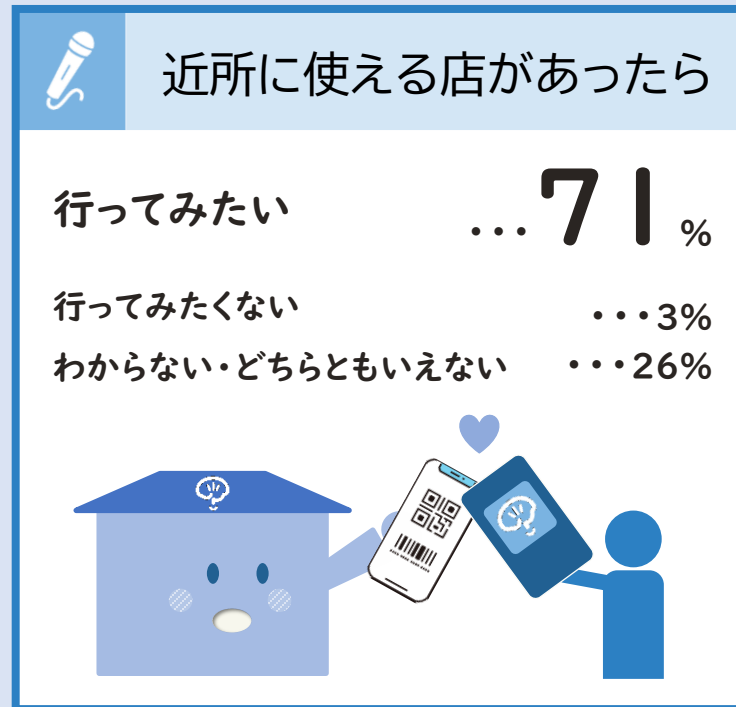
お店が決済額を
受け取る



費用・決済手数料なし
決済額は月末締め
翌月末に口座振込

ポイント利用店も募集中

てくポ利用者に聞いてみました



「とりあえず貯めっぱなし」の方が多いい今が狙い目。
皆さん近所にポイント利用店ができるのを待っています！

例えば・・・

タンパク質摂取量が少なく、
歩行速度が落ちている人がいたら・・・

プラットフォームに参加する飲食店が提供する
高齢者でも食べやすい高タンパクメニューを紹介。
来店でポイントが付くなど
健康づくりをさらに後押しできる仕掛けも。

外出の頻度が落ちて、
脳トレのスコアが落ちている人がいたら・・・

例1)近くのショッピングモールで実施されるイベントを提案。(過去のイベント参加履歴から、本人が興味を持ちそうなものに絞って提案することも可能。)
例2)コンビニに行くと、店内でのみ出現する特別な脳トレゲームが出現。

サービス情報提供に対して、プラットフォームの運営側が店舗から広告費を得る。

高齢者が自分に合った市場サービスを選択しやすいようにする

更なる高齢化により、健康増進に関心を持つ高齢者、困りごとを抱える高齢者はますます増加していく。これを全て公的サービスや地域の支えあいで解決することは現実的ではない。

一方、高齢者は**情報の收拾・選択**が苦手(企業から見れば、サービスの潜在顧客に情報を届けられない状態)。

→ 本プラットフォームで、高齢者に市場サービスの情報を提供することでこの課題を解決する。

自律的なプラットフォームを構築する

「焼け石に水」問題に陥らない介護予防事業を実施するには、**対象者数とコスト・マンパワーが比例しない**仕組みが必要。

→ 本プラットフォームは、対象者増を「スケールメリット」に変えて収入を増やしていくことで、持続的に発展していける画期的な枠組みである。